

第1回大根中学校区学校整備懇話会

国における学校教育に関する政策動向

令和6年10月

目次

1. 学校施設にかかわる3つの政策展開————— 3
2. 学校教育に関する政策展開————— 4
3. 学校規模に関する政策動向————— 5
4. 学校施設に関する政策動向————— 6

1. 学校施設にかかわる3つの政策展開

■学校教育に関する政策展開

学習指導要領改訂以降、学校教育のあり方が大きく変化している。

- 令和2年度より新しい学習指導要領の段階的实施
 - ・「主体的・対話的で深い学び」と「社会に開かれた教育課程」という、これからの時代の学校教育のコンセプトの提起
- 新型コロナウイルス感染症の流行を背景に1人1台端末が普及
- 「令和の日本型学校教育」の提起
 - ・1人1台端末を前提とした「個別最適な学び」と「協働的な学び」の展開

■学校規模に関する政策展開

学級数を維持しながら、少人数学級への移行が進もうとしている。

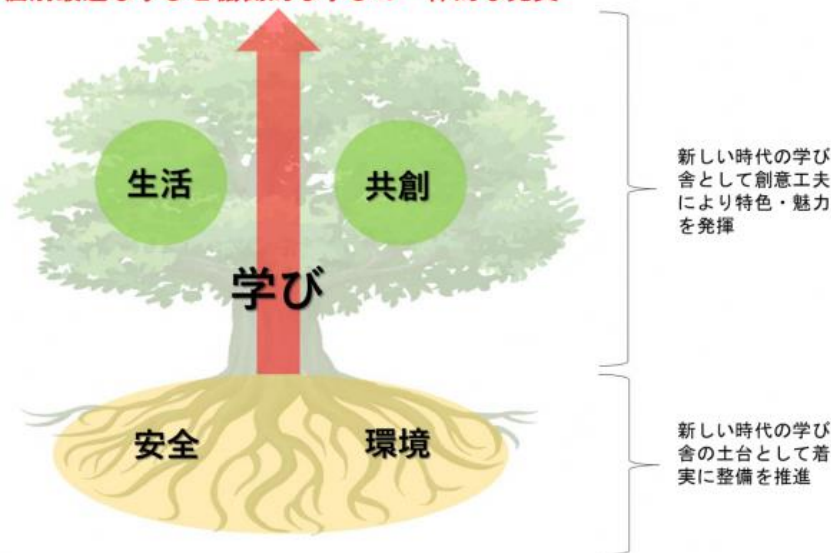
- 令和3年、学級編成に関する法律の一部改正
 - ・小学校の学級編成の標準が40人から35人に引き下げ（中学校の学級編成の標準の引き下げも視野に）
 - ・ただし、学級数の標準は小・中学校ともに8学級以上12学級以下（地域の実情にあわせて調整可能）

■学校施設に関する政策展開

これから時代に適した学校施設が空間的に提案されている。

- 令和3年、学校施設のあり方に対する提言
 - ・「学び」「生活」「共創」「安全」「環境」という5つの観点から空間的なイメージが提示
 - ・特別支援教育においてはインクルーシブ教育の場の必要性を指摘
- 令和2年、学校が建築物バリアフリー基準の適合義務対象化

全ての子どもたちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



5つの姿の方向性

(出典：「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」)

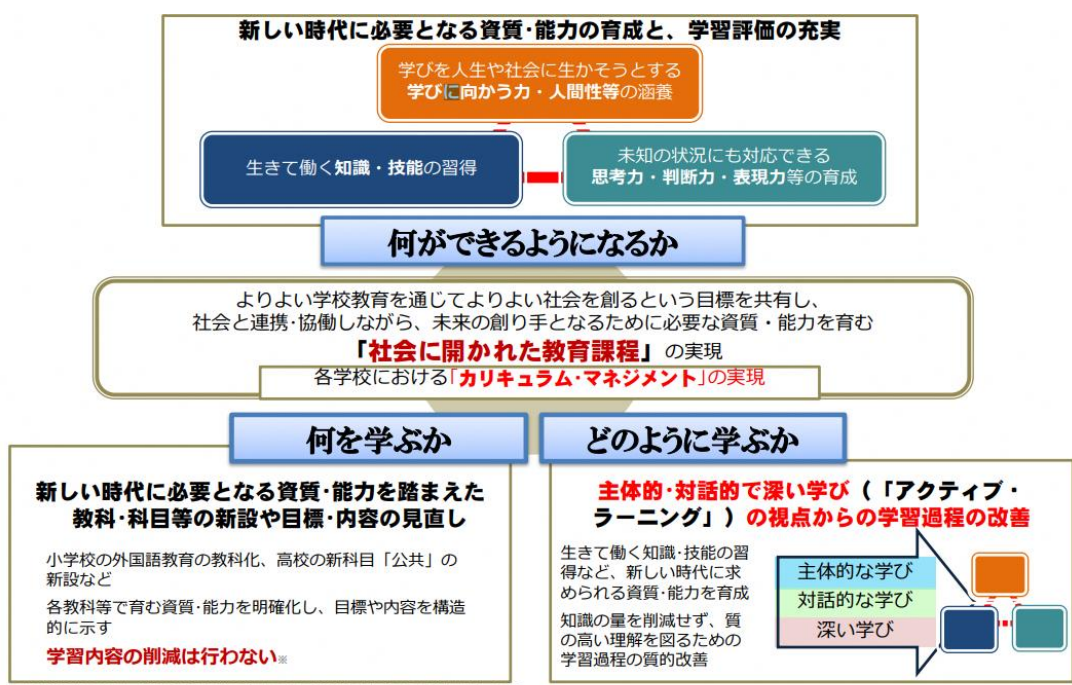


高度な学びを誘発する創造的な教室

(出典：「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」) 3

2. 学校教育に関する政策展開

- 新しい学習指導要領では、子どもたちが「よりよい社会と幸福な人生の創り手」への育つことを目指し、そのための学習のあり方を「**主体的・対話的で深い学び**」と定義した。
- 同時に、社会と接点を持ち、多様な人々とのつながりを保ちながら学ぶことができるよう、学校と社会が連携し、社会の変化を受け止めていく「**社会に開かれた教育課程**」を求めている。
- 新型コロナウイルス感染症対策として情報端末が配布された結果、**1人1台端末**が実現した。
- 子どもたちが手にしたICT端末を活用し、子どもが**自分の特性を可能性として意識**できるようになるとともに、**多様な人たちと協働**できるようになるよう、個に応じた指導「**個別最適な学び**」と他者とともに学ぶ「**協働的な学び**」の重要性が提起されている。



個別最適な学び【学習者視点】（＝個に応じた指導【教師視点】）

＼子供が自己調整しながら学習を進めていく／

指導の個別化

- ✓ 子供一人一人の**特性・学習進度・学習到達度等**に応じ、
- ✓ 教師は**必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫**を行う

→ **一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める**

学習の個性化

- ✓ 子供一人一人の**興味・関心・キャリア形成の方向性等**に応じ、
- ✓ 教師は**一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供**を行う

→ **異なる目標に向けて、学習を深め、広げる**

協働的な学び

- ✓ 子供一人一人の**よい点や可能性を生かし、**
- ✓ 子供同士、あるいは地域の方々をはじめ**多様な他者と協働**する

→ **異なる考え方が組み合わさり、よりよい学びを生み出す**

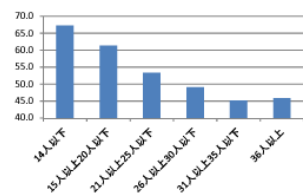
3. 学校規模に関する政策動向

- 新型コロナウイルス感染症対策による3密の回避にくわえ、一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導を可能とする指導体制を確立し、個別最適な学びと協働的な学びを実現するため、小学校の学級定員が40人から**35人に引き下げ**られた。（中学校の学級定員引き下げは行われなかった。）
- ただし、既存の教室数に限りがあることや教職員の確保などが35人学級の実現に向けた課題と指摘されている。
- 学級編成は少人数化しているものの、学校全体の児童・生徒数の小規模化については慎重であり、小学校・中学校ともに標準的な学級数は**12学級以上18学級以下**とされている。（地域の実情に合わせてよいとは言われている。）

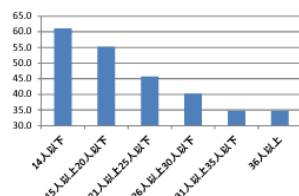
我が国における学級規模に関する研究事例

学級規模が小さいほど、①学習規律・授業態度が良い、②授業内容が高まる、③学習意欲が高まる傾向

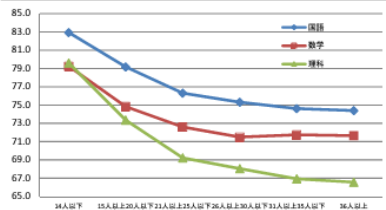
授業中の私語が少なく、生徒が落ち着いている学校の割合



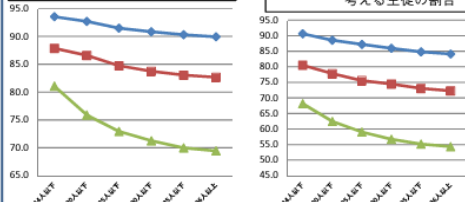
生徒が礼儀正しい学校の割合



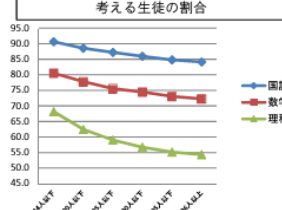
授業内容がよく分かると答えた生徒の割合



勉強は大切だと思う生徒の割合



学習したことが将来社会で役立つと考える生徒の割合



(出典) 平成27年度全国学力・学習状況調査(中学校分)

少人数学級による効果 (教育再生実行会議有識者からの意見)

<少人数学級の効果>

- ✓児童生徒と教員が接する時間を多く確保できる。
- ✓児童一人ひとりの状況を把握しやすい。
- ✓教員の負担軽減にもつながっている。
- ✓学校生活において落ち着いた生活を送れている。

<大規模学級のデメリット>

- ✓一人の教員が受けもつ児童生徒の人数が多いため、負担が大きい。
- ✓大人数が不登校の「壁」にもなっていることが顕在化。

<少人数学級の必要性>

- ✓感染症対応を踏まえ、学びを保障するとともに、個別最適な学びを実現することが重要。
- ✓1人1台端末環境の下での一人一人に応じた個別最適な学びや、多様な学習活動に対応する環境の整備が急務。
- ✓通常学級に籍を置く特別な支援を要する子が増加。

(出典) 教育再生実行会議第46回・47回有識者提出資料、初等中等教育ワーキング・グループ第1回合意文書、初等中等教育ワーキング・グループ第3回有識者提出資料より抜粋

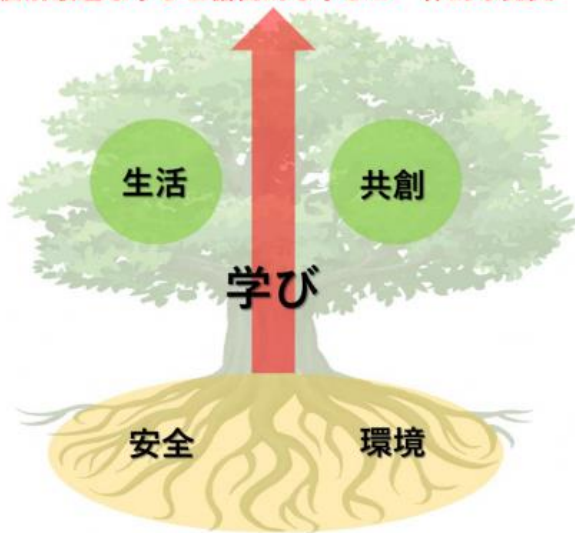
少人数学級による効果等について (出典：文部科学省 今後の教職員定数の在り方等に関する国と地方の協議の場 (第1回) 配付資料)



4. 学校施設に関する政策動向

- 教育や建築の研究者・実践家等が検討委員となり「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」がまとめられ、個別最適な学びと協働的な学び、社会に開かれた教育課程、そのほか防災や環境性能などの今日的な課題に対応し、「**学び**」「**生活**」「**共創**」「**安全**」「**環境**」の5つの領域で**空間イメージ**が提示された。
- 特別支援教育のための学校のあり方については、障害の有無にかかわらず可能なかぎり**一緒に教育を受けられる場**の整備を提起しながらも、同時に子どもの特性に応じて通常学級から特別支援学校まで**連続性のある学びの場**を確保することの重要性も指摘されている。
- バリアフリーの観点では、学校が建築物バリアフリー基準の適合義務対象となり、ユニバーサルアクセスが求められるようになったことから、**エレベーターの設置**や**段差の解消**が取り組まれるようになっている。

全ての子どもたちの可能性を引き出す、
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実



5つの姿の方向性

(出典：「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」)

新しい時代の学び
舎として創意工夫
により特色・魅力
を発揮

新しい時代の学び
舎の土台として着
実に整備を推進



高度な学びを誘発する創造的な教室

(出典：「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」)

4. 学校施設に関する政策動向

■すべての子どもの可能性を引き出す学び舎としての学校

学び



単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な学びに対応できるよう、創造的な空間に転換していく姿

学び



学校図書館とコンピュータ教室と組み合わせ、読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・commons」としていく姿

学び



教室と連続する空間も活用し、高機能のコンピュータ室を専門的で高度な学びを誘発する「デザインラボ」としていく姿

学び



映像編集やオンライン会議のためスタジオ、情報交換や休息ができるラウンジなど、円滑に業務を行える執務空間としていく姿

生活



木材を活用し温かみのあるリビングのような空間の中で、壁面の工夫やベンチ等を配置し、豊かな学び・生活の場としていく姿

共創



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間としていく姿

安全



長く使い続けることができるように安全性を確保し、子供たちの学び・生活の場、地域のコミュニティの拠点としていく姿

環境



省エネルギー化や再生可能エネルギーを導入等を積極的に進め、環境教育での活用や地域の先導的役割を果たしていく姿

